

## 県立ハケ岳スケートセンターに係る最終評価と今後の施設のあり方(案)

### 1 施設概要

- [ 名 称 ] 県立ハケ岳スケートセンター  
 [ 所 在 地 ] 北杜市小淵沢町上の原 3989-1  
 [ 規 模 ] 屋外人工スケートリンク(幅 13m×1 周 400m)、管理棟(延床 475 ㎡)、  
 倉庫兼休憩所(＼ 270 ㎡)、記録棟(＼ 38 ㎡)、車庫(＼ 53 ㎡)  
 [ 営業期間 ] 毎年 11 月 20 日から 2 月の第 2 日曜日まで(期間中は無休)

### 2 経 緯

- H14. 2 公共施設改革プログラムにおいて「地元 4 町村へ移譲又は管理委託、施設利用団体への移譲等を検討」  
 H15.11 小淵沢町と移譲を協議したが、受入はできないとの回答  
 H17.12 第二次山梨県行財政改革プログラムにおいて「市町村等への移譲を検討」  
 H19.4 北杜市に施設の移譲を申し入れたが、受入はできないとの回答  
 H18. 4 指定管理制度を導入し、指定管理者として山梨県体育協会と契約  
 H23. 9 行政評価アドバイザー会議において「廃止 2 名」、「要改善 1 名」  
 H24. 7 県が北杜市や関係団体と「ハケ岳スケートセンターの今後のあり方に関する検討会」を開催し、北杜市に移譲を打診  
 受入はできないとの回答  
 H24.11 ハケ岳スケートセンターの今後のあり方に関する方針の公表  
 次の改善策の実施を条件に 27 年度までセンターを存続させ、同年度に県が存廃を評価して存続と判断した場合は、29 年度に最終評価  
 [ 改善策 ]  
 関係団体が利用者を増加させること(年度毎に目標値を設定)  
 指定管理料の削減が図られること  
 引き続き、指定管理者が運営すること  
 の利用者数について達成状況を評価していくこと  
 H28. 2 存廃に関する中間評価を行い、24～26 年度までの利用者実績の累計が改善策の目標を達成したことから、センターを当面存続させて、29 年度に最終評価を実施  
 H29.11 施設の移譲について、県教育次長が北杜市長と面談時に打診  
 受入はできないとの回答

### 3 改善策の検証(最終評価)

24 年度の「ハケ岳スケートセンターの今後のあり方に関する方針」で設定した 4 項目の改善策の検証結果については、次のとおりである。

関係団体が利用者を増加させること(28 年度に最終目標値 18,080 人を設定)。

下記の表 1 のとおりで達成済み

表 1 「H24～28 年度の利用者数」

(単位：人)

年 度	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H24～28
実績値	13,897	15,922	15,030	18,260	18,390	81,499
目標値	13,620	14,510	15,625	16,940	18,080	78,775
差	277	1,412	595	1,320	310	2,724

指定管理料の削減が図られること

H24年度以降の指定管理料を削減したことにより**実施済み**

(H24指定管理料は1,490千円削減)

引き続き、指定管理者が運営すること

H21～25年度の5年間に続いて、H26～30年度も山梨県体育協会が指定管理者として運営していることで**達成済み**

の利用者数について達成状況を評価していくこと

毎年、営業開始前の11月下旬と終了後の3月中旬に、県や指定管理者(県体育協会)、北杜市、競技団体などで構成する利用促進会議を開催して、利用者拡大に向けた取り組みを話し合い、営業期間が終了後にその成果を評価してきたことで**達成済み**



～ **全て達成済み**

#### 4 施設の利用形態別分析

##### (1) 施設の利用形態

24～28年度における滑走料金別の利用形態は、図1のような推移となっており、利用者数全体では、26年度以外、前年度を上回っており、利用形態別においてもほとんどが増加傾向となっている。

また、利用者一人当たりの経費(指定管理料)は、表2のとおり利用者数が増えたことで低下傾向となっており、28年度は24年度よりも約23%低下している。

図1 「年度別 施設の利用形態」

(単位：人)

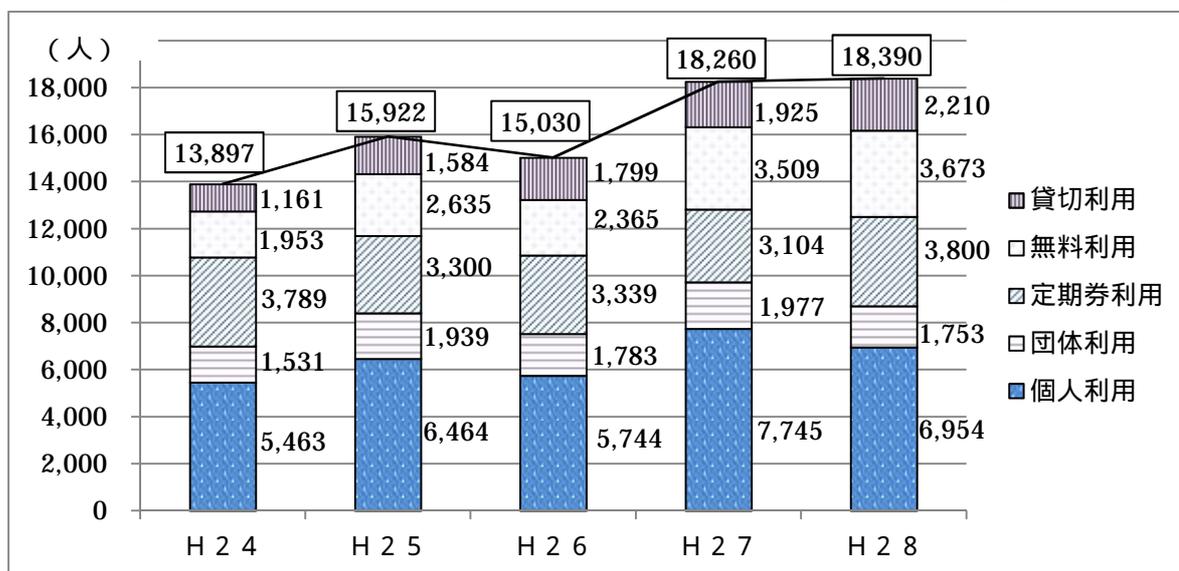


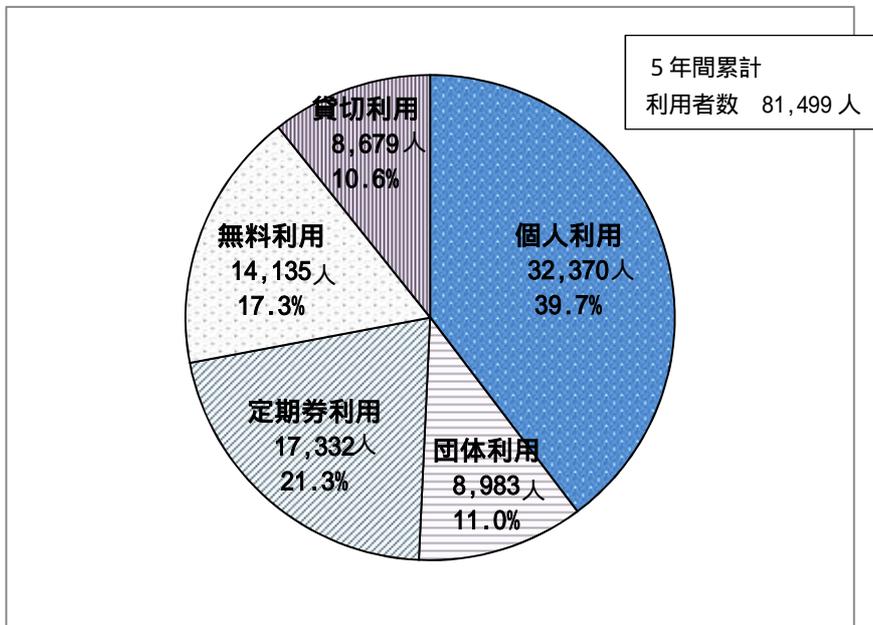
表2 「利用者一人当たりの経費(指定管理料)」

(単位：円、人)

	H24	H25	H26	H27	H28
指定管理料	50,225,000	49,868,000	50,558,000	51,414,000	51,144,000
年間利用者数	13,897	15,922	15,030	18,260	18,390
利用者一人当たりの経費	3,614.1	3,132.0	3,363.8	2,815.7	2,781.1

24年度からの5年間でもっとも多かった利用形態は、図2のとおり、通常の滑走料金を支払って利用する個人利用の32,370人(39.7%)であり、次がシーズン通して利用できる定期券利用で17,332人(21.3%)、そして県民の日などの無料開放日を使った無料利用の14,135人(17.3%)、20人以上の団体利用が8,983人(11.0%)、貸切利用の8,679人(10.6%)となっている。

図2 「5年間累計の利用形態構成比」

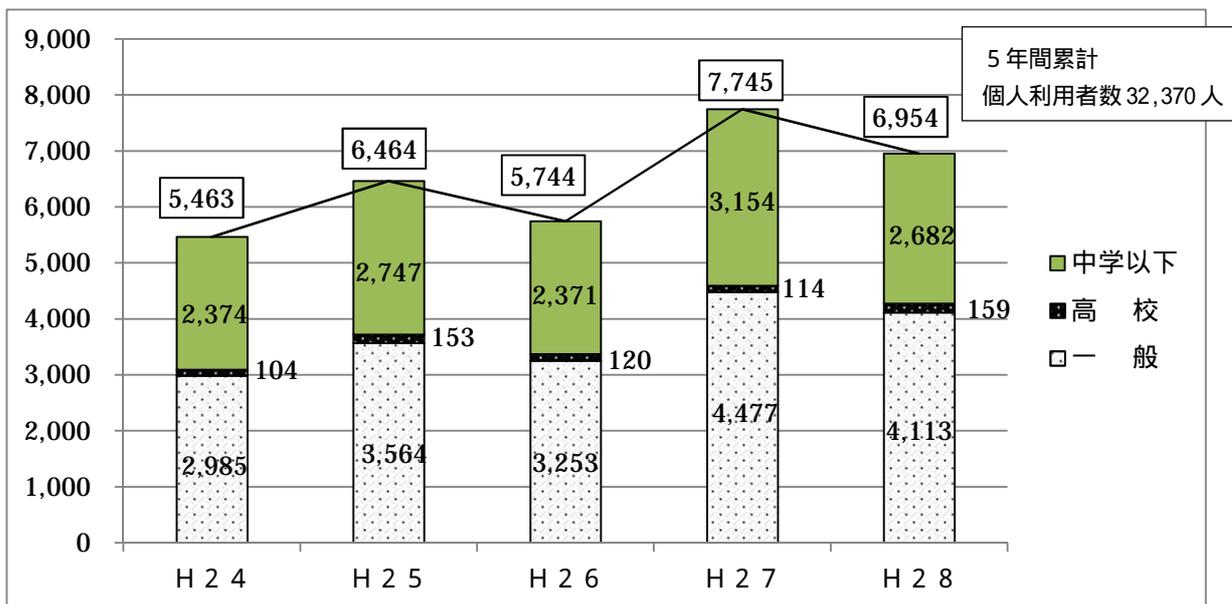


(2) 個人利用について

個人利用は、図3のように増減はあるが、24年度から概ね増加傾向で推移しており、一般、高校生、中学生以下の構成内訳に変化はほとんどない。また、利用者の多くは、スケート目的で来場した家族や高校生、中学生以下をはじめ、当センターに隣接する八ヶ岳リゾートアウトレットや道の駅小淵沢などを訪れた観光客などが利用している。

図3 「年度別の個人利用構成内訳」

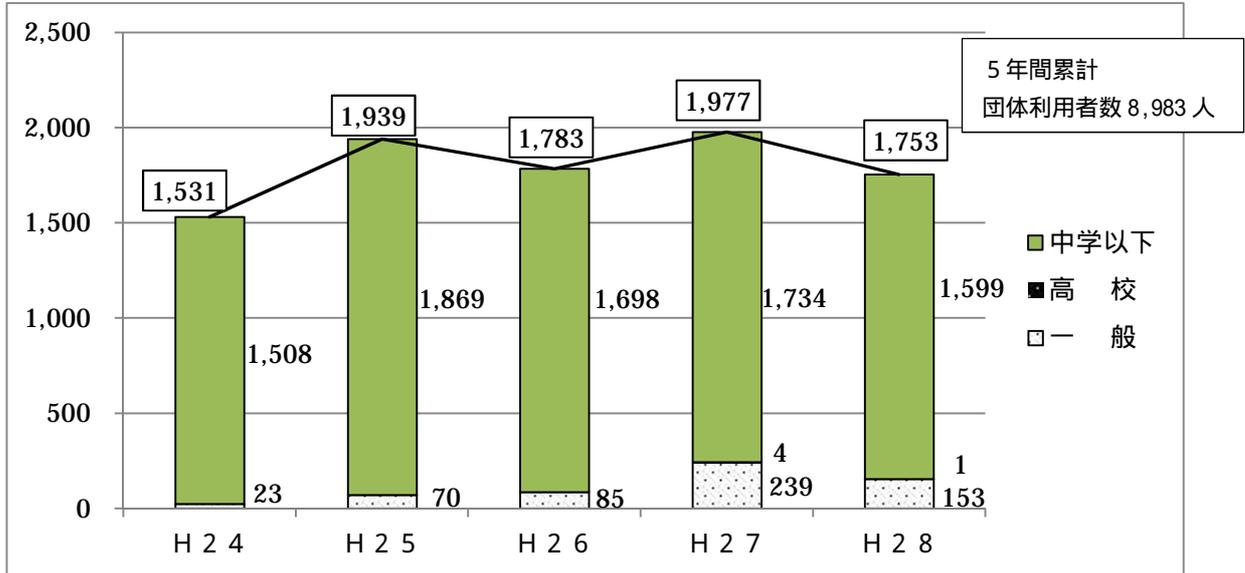
(単位：人)



(3) 団体利用について

20人以上の団体利用は、センター周辺の小中学校が実施しているスケート教室の利用が多いため、図4のように年度別の構成内訳も中学生以下が一番多くなっている。

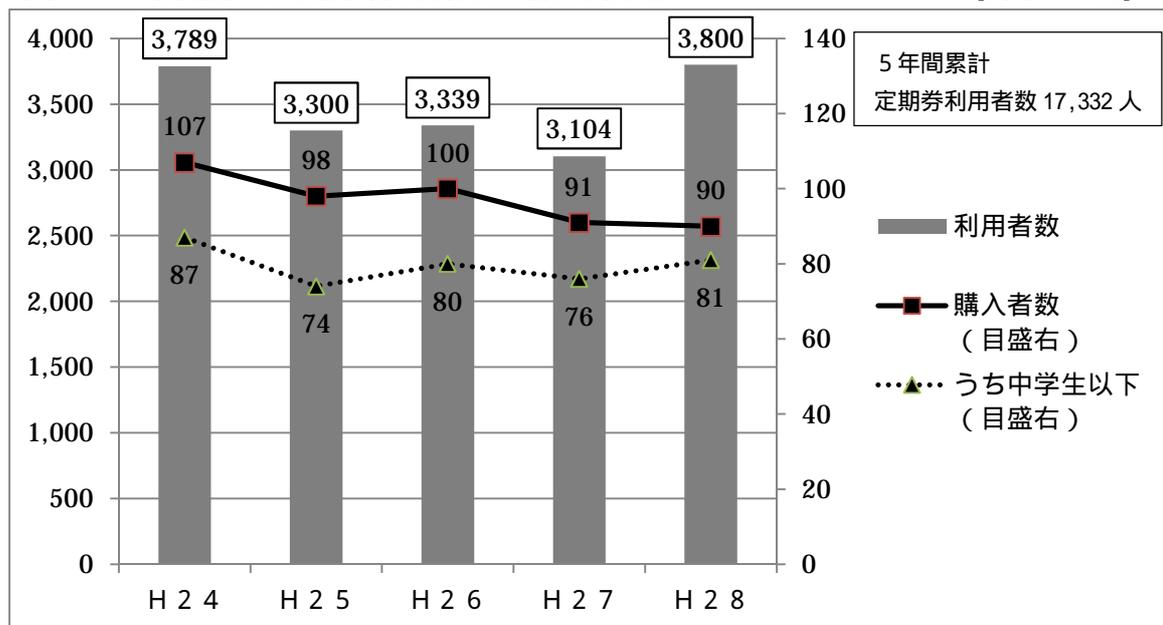
図4 「年度別の団体利用構成内訳」 (単位：人)



(4) 定期券利用について

定期券の利用者は、1シーズン通して使える定期券を購入しているスポーツ少年団員や中学、高校のスケート部員、指導者である。図5のように購入者数は減少傾向だが、延べ利用者数は毎年3,000人を超えており、これは定期券購入者が当センターを練習拠点として複数回利用しているためである。

図5 「年度別の定期券利用者数と購入者数」 (単位：人)

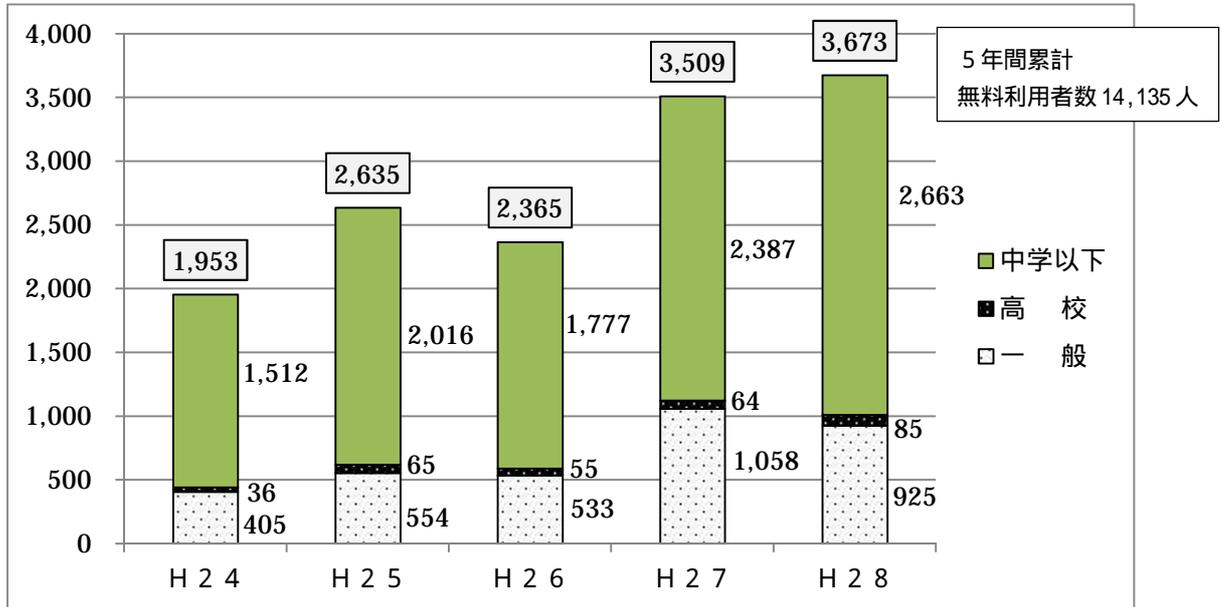


(5) 無料利用について

無料利用者の推移は、図6のように24年度から増加傾向となっており、構成内訳でもすべてが増加傾向である。

図6 「年度別の無料利用構成内訳」

(単位：人)



滑走料が無料となる要件

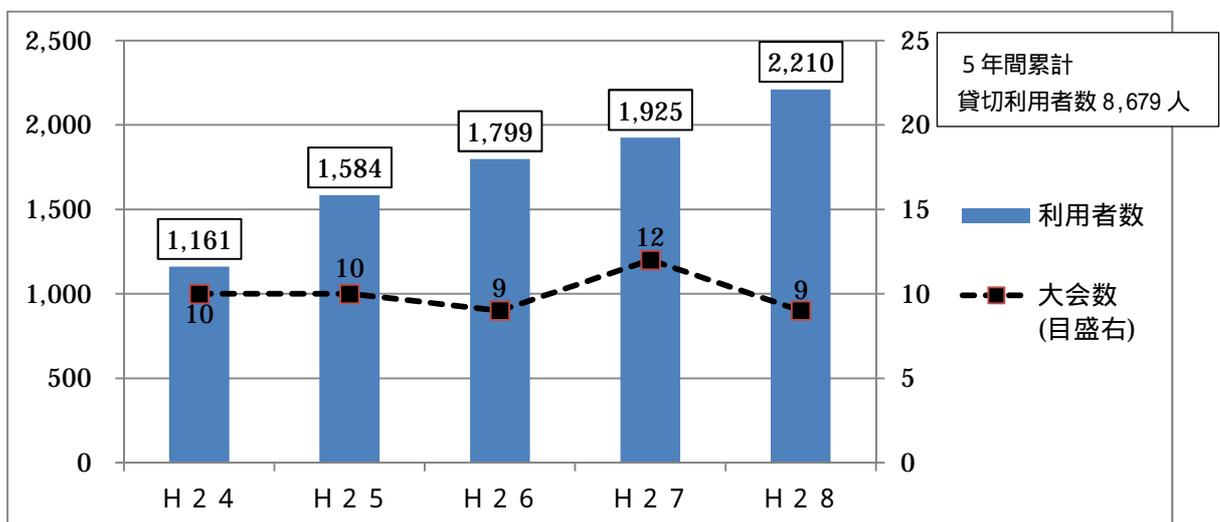
- ・ 県民の日(11/20)、富士山の日イベント(2/5)は、来場者全員の滑走料無料
- ・ 65歳以上、障がい者とその介助者は、常時滑走料無料
- ・ 土曜日は、高校生以下の滑走料無料

(6) 貸切利用について

貸切利用は、スピードスケート競技の大会などを開催するための利用がほとんどであり、その実績は図7のとおりである。また、当センターで過去5年の間に開催された大会数の年平均は10回だが、大会参加者などの増加により利用者数は着実に増えている。

図7 「年度別の貸切利用者数と大会数」

(単位：人、回)



## 5 施設利用における特徴

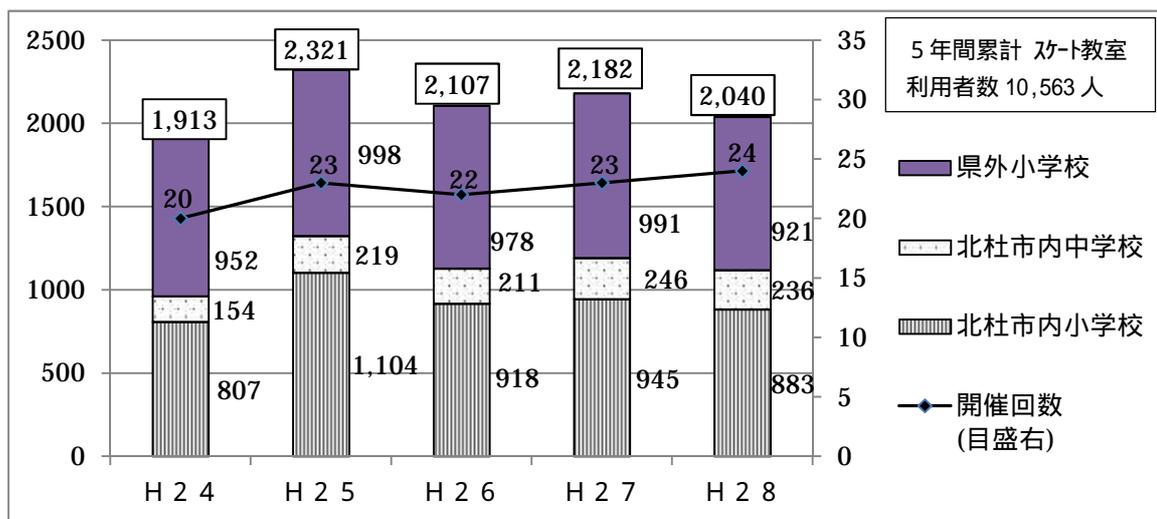
当センターの利用においては、以下のような特徴がある。

### (1) スケート教室による利用（学校教育での利用）

当センターでは、周辺の小中学校が児童・生徒の体力づくりなどを目的としてスケート教室を実施しており、過去5年間に実施されたスケート教室の利用者数と開催数は、図8のとおりである。

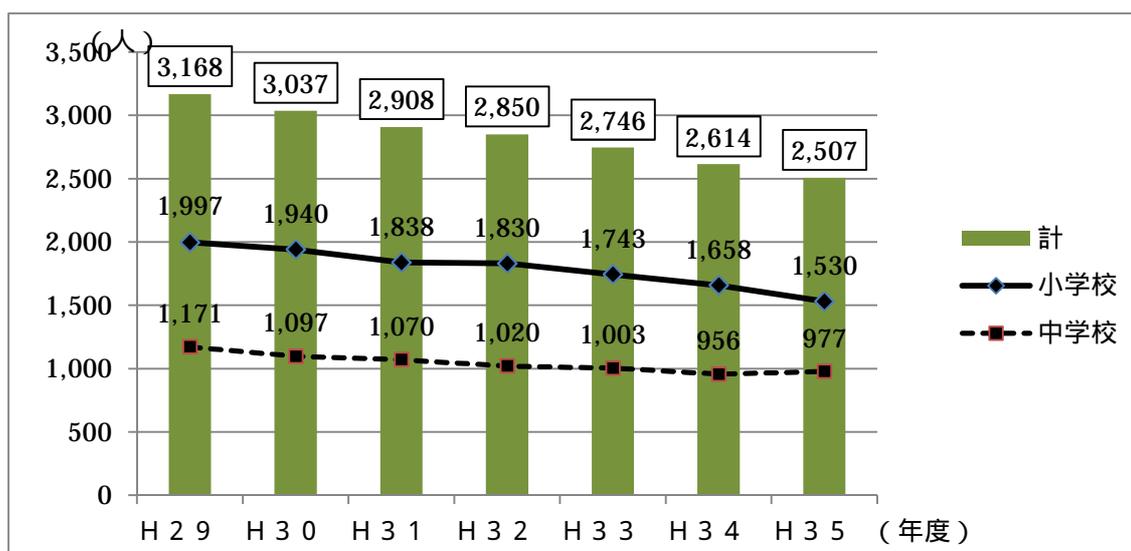
過去5年間に於いて、各小中学校の積極的な取り組みによりスケート教室の開催回数は増えているが、利用者数は年間2,000人前後となっている。

図8 「年度別のスケート教室利用者数と開催数」 (単位：人、回)



なお、今後は、北杜市内における小中学生数が、図9のとおり、減少傾向となると見込まれていることから、スケート教室の利用者数などにも影響があると予想される。

図9 「北杜市の小中学生数の推移見込み」 (単位：人)



平成29年度学校基本調査及び北杜市人口集計表より推計

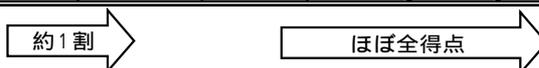
(2) スケート競技ジュニア選手の育成(競技力の向上)

当センターは、スピードスケート競技におけるジュニア選手の育成や競技力向上に、継続的に利用されている。

その成果として、国民体育大会におけるスピードスケート競技は、表3のとおり、過去5年間の平均で国体全得点の約1割を占めている。特に少年男女では、ほぼ全得点を峡北地域の選手が獲得しているが、峡北地域のスケート選手は、当センターを練習拠点としており、本県の国体成績に大きな貢献をしている。

表3 「国民体育大会の成績」

年度	回数	国体全得点						スケート競技会 男女総合 順位	国体 総合 順位
		スピードスケート得点							
		(参加点 10点含)	少年男女得点			峡北地域のみ			
			少年 男子	少年 女子	合計	少年 男子	少年 女子		
合計									
H24	67	751.0	90	30	12	18	30	4	41
H25	68	856.5	88	36	13	23	36	5	31
H26	69	892.0	92	56	23	33	56	8	29
H27	70	818.5	109	55	8	43	51	4	34
H28	71	953.5	75	42	9	33	42	6	23
<b>平均値</b>		<b>854.3</b>	<b>90.8</b>	<b>43.8</b>			<b>43</b>		



また、当センターを練習拠点としていた選手の中から、オリンピック出場選手をはじめ数多くのトップ選手が輩出されており、現在も、全国中学校スケート大会5000mで5位入賞した佐藤天海選手(現北杜高校スケート部)といった有望選手が、当センターを利用している。

- 八ヶ岳スケートセンターを練習拠点としていたスケート選手
- ・有野美治(帝京三高出身、トリノオリンピック出場)
  - ・松岡芙蓉(帝京三高出身、富士急行スケート部所属)
  - ・石川将之(北杜高校出身、早稲田大スケート部所属) など

6 これまでの収支状況(過去5年間)

H24～28年度における収入と支出の推移は表4のとおりであり、5年間の指定管理料の平均値は約50,641千円/年となっており、今後も引き続き、経費の削減に努めることとする。

表4 「年度別の収入・支出額内訳」

(単位:円)

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	5か年平均
収 入	A 収入額計	55,697,750	55,980,170	56,623,752	58,802,294	57,979,148	57,016,623
	施設利用料	5,472,750	6,112,170	5,887,980	7,186,800	6,630,610	6,258,062
	指定管理料	50,225,000	49,868,000	50,558,000	51,414,000	51,144,000	50,641,800
	その他			177,772	201,494	204,538	116,761
支 出	B 支出額計	54,849,324	55,250,081	55,069,396	57,576,447	55,538,266	55,656,703
	人件費	7,079,660	7,786,882	7,450,605	9,360,873	7,271,433	7,789,891
	管理運営費	47,769,664	47,463,199	47,618,791	48,215,574	48,266,833	47,866,812
	うち外部委託費	25,370,100	25,370,100	26,061,620	26,061,620	26,061,620	25,785,012
収支差額(A-B)		848,426	730,089	1,554,356	1,225,847	2,440,882	1,359,920

## 7 今後の施設のあり方

当センターの設置目的であるスケートの普及振興を図り、もって県民の心身の健全な発達に寄与することや、施設利用における特徴を踏まえると、今後の施設のあり方は次のとおりとする。

- (1) スケートの普及振興及びスピードスケート競技のジュニア選手育成や練習、大会会場として利用する競技力向上を目的とした施設
- (2) 県内の小中学校が、児童生徒の体力向上のため、スケート教室を開催する学校教育で利用する施設
- (3) 県民の健康増進や観光客のレジャーとしての利用を目的とした施設

## 8 今後の運営の方向性

前項の「今後の施設のあり方」を遂行していくため、以下の(1)から(3)により、北杜市や競技団体、指定管理者などがスケート教室や競技力向上への取り組みを拡充させるとともに、県民や観光客の利用を拡大することで、**公の施設運営の考え方としては、利用の最大化とコストの最小化を図ることが必要であり、これを達成するため、新たな目標を設定する。**

- (1) スケート競技のジュニア選手育成と競技力向上
- (2) 小中学校のスケート教室での利用拡大
- (3) 県民や観光客の利用拡大

当センターは、施設の効率的な管理運営を行うため、平成18年度から指定管理制度による管理運営を行っており、現在は、平成26年度から平成30年度までの5年間を指定管理期間として、山梨県体育協会が指定管理者となって管理運営されている。

この指定管理者による施設の管理運営を行ったことで最終評価を達成できたことから、コストを抑えた効率的な管理運営を行うため、指定管理制度による管理運営を継続していく。